

さとおやこのおはなし

町で一緒にいるとよく「お孫さんですか？」と聞かれます。「はい、家の

大事な子です」と答えると恥ずかしそうに嬉しそうにしています。だんだん世間なれ(?)してきて、知っている人と会うのが楽しいみたい。さて、今年の夏休みはいつ迎えに行こうかなあ。みっちゃんの首が長くないうちに行こうか。ひょっとして私の首の方が長くなったりして。

「みっちゃん」より一部抜粋
週末里親さん



「ただいま」と言ったら、「おかえり」と声を返してくれる。こんな当たり前のことでも、心が満たされると思います。私は本当に幸せ者です。

「本当に大切な家族」より一部抜粋
養子里親さん

中学一年生の秋、私は正式に里子として暮らすことになりました。それまではずっと「いい子にしていなければならない」「弟を守らなければいけない」と頑張ってきました。しかし、里親さんは「そんなことはしなくていいんだよ」と言ってくれました。

「ありがとう」より一部抜粋
里子のAさん

ある時、私が料理をしていると、そばに来て「なに作ってんの？」と聞くので、「さーお楽しみ」とだけ答えて焼き飯を作りました。食べる時になって、それをパクパク食べながら「お楽しみ、おいしいね」とニコニコしながら言います。すっかりこれが「お楽しみ」という料理と思われて大笑いです。日に日に可愛くなって、「このまま一緒にいられたらいいのに」と思うようになっていたある日、実のお母さんにお返しする日が決まったとの知らせが入りました。元気で幸せに成長できますように！そう祈りながら、涙をおさえてさよならしました。

「元気で幸せに成長できますように！」より一部抜粋
養育里親さん

